

3年 組国語科学習指導案

日時：平成15年11月20日(木)第3校時

場所：3年組教室(2階)

児童数： 名(男子 名、女子 名)

授業者：大溝淳司

1. 単元名：「動物と人間のかかわりを調べよう」

2. 教材名：「動物とくらす」(林良博)
「パンフレットを作ろう」

3. 指導の立場

(1) 単元について

説明文「動物とくらす」では、まず一つは、「動物と人との関わり」の推移(ずっと昔から 近ごろ これから)が示されている。また、これからの少子高齢化社会が内包する介護体制まで視野に入れた内容であり、共生社会を考える要素も含まれている。命あるものに直接触れることで与えられるエネルギーについて知った児童が、動物との暮らしをどう考えるか、また、自分とお年寄りや病気の人との暮らしをどう見つめるか、いろいろな時期に思い起こしてほしいテーマである。

言語の学習としては、分かりやすく伝えるための「こそあど言葉」「例示」に着目させたい。「こそあど言葉」「たとえば」の語の使い方を学び、今後の読む活動や表現活動に生かせるようにしたい。また、情報収集のための本の読み方や、調べるときのメモの取り方もコンパクトにまとめられ、児童の自主的な活動に供している。

「パンフレットってなんだろう」という素直な質問に、教科書の脚注で答えながら、パンフレットの活用法も具体的に示したい。活動のための活動ではなく、図書館に置いてもらうことをイメージした導入を十分生かしたい。

活動を進めるにあたって、調査活動の基本を三つ示している。一つ目は、相談や依頼をするとき、相手にどう自分の意図を伝えるか、二つ目は、参考資料の中から目指す内容を検索する方法、三つ目にはメモのとり方である。特にメモのとり方については、今後のさまざまな学習活動で活用する力になることを認識し、丁寧に扱うことが大切である。また、パンフレットの作り方も、前書きや目次など、今後の学習に生かせる内容になっている。

(2) 児童の実態

自分の意見を発表することに対して、男子の方が積極的で、女子の方は消極的な傾向が見られる。グループの中や普段の学級内では、ある程度自信をもって表現できる児童が多いが、参観日や、全校の前など、普段と少し違った場面になると、思ったように表現できなくなる事が多い。

授業での話し合いにおいては、自分の意見を持っていても、人任せにして進んで発言できない児童もあり、いつもよく発表する児童が決まってしまう、一部の児童で、授業が進んでしまいそうなこともある。誰かが発言したときに、ただ拍手をする姿も見られたので、必ず、どういう拍手なのかが分かるように、「同じです」「なるほど」などの反応をするように指導してきた。

朝の会でのスピーチでは、自信がなさそうだったり、内容が短かったりしたので、現在は、前日に原稿を書いてくるようにしている。そのことで、少しは自信をもって話せるようになってきている。

「調べたことを発表しよう」という単元の発表会では、自分の表現しているところをビデオで撮り、客観的に自分の姿を振り返らせた。発表会が終わったときの児童の感想は「大きな声で発表できた」というものが多かったが、ビデオを見てみると、「声が小さい」「はっきり聞こえない」ということに気づく姿も見られた。

(3) 研究主題に関わって

自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えるために、言いたいことの中心をはっきりさせて話すことが中学年としては大切になってくる。そこで、本単元では、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む力をつけていきたい。その際、意味の内容を追うだけでなく、指示語や接続語をしっかりと押さえることで、「読み」でつけた力を「表現」へと生かしていきたい。

研究の視点

- ・文章のパズルは、段落相互の関係を考えるために有効であったか。
- ・評価規準を生かした指導の手だてはどうであったか。

4. 単元の目標

動物と人間のかかわりに興味をもち、事例に注意しながら文章を正しく読む。
動物と人間のかかわりについて本を読んで調べ、分かったことをパンフレットにまとめる。

5. 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
・動物と人間のかかわりに興味をもち、進んで本を探したり、進んでパンフレットを書こうとしている。	・動物と人間の関わりについて自分の調べたことを分かりやすく発表することができる。(ア)	・動物と人間の関わりについて必要な事柄を収集し、相手や目的をはっきりさせ、パンフレットを作ることができる。(アイ)	・自分の体験と重ね合わせて読み、一人一人の考えに違いがあることに気づいている。(エ) ・分かりやすくするために、例や「こそあど言葉」などが工夫されているところに注意して読むことができる。(イオ)	・分かりやすくするための語句「たとえば」の働きを知るとともに、指示語「こそあど言葉」を使えるようにする。(エ(ア)) (オ(ウ))

6. 単元指導計画

	ねらい	学習活動	評価規準
1	・自分の体験と重ね合わせて読み、一人一人の考えに違いがあることに気づくことができる。	・題名読みから、動物とかかわった体験を話し合い、パンフレット作りの学習計画を立てる。	・自分が動物とかかわった経験を思い出しながら文章を読み、それが友達と違うことに気づいている。
2	・「力」という言葉にこだわって全文を読み、筆者が動物のどんな力に着目して述べているか大体つかむことができる。	・全文を通読し、1段落を手がかりに人間に恩恵をもたらす動物の力についてまとめる。	・動物が持っている二つの力、特に人間を元気にする力について書かれていることが分かる。
3 (本時)	・ばらばらになった文章を正しく並べたこととなる語や文、「そのような力」「この話」などの指示語に着目して段落相互の関係を考えることができる。	・「こそあど言葉」に着目した読みから、ばらばらになった本文を正しく並べ、段落相互の関係を考えるのに大切なことを考える。	・ポイントになる言葉(指示語)に着目して、文章を並べ替えようとしている。

4	<ul style="list-style-type: none"> ・「たとえば」に着目して、二つの例示の違いを読みとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たとえば」という言葉を使ってどんな例を挙げているのかを読みとり、例示に基づき、知っていることや感じたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たとえば」に着目してそれぞれの例示を正しく読み取っている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が本文で言いたかったことを自分の言葉でまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言いたかったことに迫り、学習をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言いたかったことを自分なりの言葉でまとめている。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・動物がどんなところで、どんなふうに人間とかかわっているのかを調べ、パンフレットとしてまとめていくことに意欲をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「動物と人間のくらしのパンフレット」作りに意欲をもち、全体の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作りの計画を立てることができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書31ページの「本を読む前に、内よりの見当をつけるには」を手がかりにし、図書館資料の検索の仕方が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った本や資料の探し方やメモのとり方について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の「調べ方」や「メモの取り方」を想起するとともに、図書資料の検索の仕方が分かっている。
8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の必要とする資料を集めることができる。 ・集めた資料の中から自分にとって必要なことをメモすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った図書資料や関連のある事柄(人)を見つけ、情報を集め、集めた情報から必要な事柄をメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の必要とする資料を集め、集めた資料の中から自分にとって必要なことをメモしている。
11 12 13	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のメモを基に相手意識をもったまとめ方の工夫ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを活用しながらパンフレットの原稿を作り、グループで分担して、パンフレットの前書き、目次などを作り、仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のメモを基に相手意識をもったまとめ方の工夫をしている。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べたことを分かりやすく発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったパンフレットを基に、自分が調べたことをみんなに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べたことを分かりやすく発表している。

7. 本時のねらい(3/15)

- 文章中の「そのような力」が「人間を元気にする力」、「これらの動物」が「昔から人間と親しくしてきた動物や、おとなしい動物」を指し示すことを読みとり、日常生活の中で「こそあど言葉」を使った経験を見つけ出すことができる。

8. 本時の展開

	主な学習活動	留意点	指導・援助
導入	<p>前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容の確認 動物が持っている二つの力、特に人間を元気にする力について書かれていることが分かる。 <p>プリント配布後、2段落を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2つの文をばらばらに示し、その文だけでは、「そのような力」「これらの動物」がはっきり分からないことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物をもとに思い出せるようにする。
課題化	<p>プリント配布後、2段落を音読する。</p>		<p>【規準】</p> <p>A:文章中の「こそあど言葉」の指し示す内容を正しく読みとり、「こそあど言葉」を使った経験を日常生活の中から、見つけ出している。</p>
課題提示	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>< 課題 > 「そのような力」「これらの動物」が何を指しているか読みとろう。</p> </div>		<p>B:文章中の「こそあど言葉」の指し示す内容を正しく読みとっている。</p> <p>C:「こそあど言葉」の指し示す内容が分からない。</p>
課題追求	<p>「そのような力」「これらの動物」が何を指しているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物が人間を元気にする力だと思う。 心を安らかにする力だと思う。 人間の役に立つ力だと思う。 犬やねこ、ハムスター、うさぎ、馬だと思う。 昔から人間と親しくしてきた動物や、おとなしい動物だと思う。 <p>「そのような力」「これらの動物」が指し示す内容を確認しながら、2段落の内容を押さえる。</p> <p>表を使って「こそあど言葉」とはどういうものか押さえる。</p> <p>日常の中で「こそあど言葉」を使った経験を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「そのような力」「これらの動物」に着目できるようにカードを提示する。 疑問の形で終わっていることから、次から答えになる部分が書かれていることに気づかせる。 「こそあど言葉」の表を提示、配布する。 児童が発表したことを、表に基づいて、種類や使い方の違いに気づかせる。 	<p>【手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1段落ではどんな力について書いてあったかを思い出させる。 2段落には、どんな動物が出てくるかに注目させる。
評価	<p>本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価をし、次時の確認をする。 		

研究の視点

- 文をばらばらにして提示したことは課題化に有効であったか。
- 評価規準を生かした指導の手だてはどうであったか。